

夏休みを利用した子ども達への動物愛護普及啓発事業

長野県動物愛護センター ○松木信賢 小木曾悦人 坂本淳 松澤淑美
竹谷祐彰 宮本仁志 小林雅巳

1 はじめに

動物愛護センター「ハローアニマル」(以下、「ハローアニマル」)では開設当初より、動物ふれあい事業の一環として「サマースクール(夏休み職場体験実習)」を実施している。また昨年度は、新たに小学生高学年とその親を対象に夏休み自由研究サポートイベント(以下、自由研究イベント)も実施した。これらイベントの目的は、身近な動物について正しいふれあい方や、命の大切さなどを学びながら当所事業の理解を深めてもらうことにある。

自由研究イベントを開催したところ、参加者の中には自由研究と並行して「こども新聞コンクール」の記事作りのために参加している親子も見受けられた。子ども達への動物愛護普及啓発のあり方について異なるアプローチ方法が示唆されたので報告する。

2 事業の概要

(1) 事業の名称

ハローアニマル夏休み自由研究サポートイベント

(2) 事業の目的

動物愛護センターの事業周知及び動物愛護普及啓発

(3) 参加者

小学校5,6年生計12名(保護者同伴)

(4) 実施方法

12名を午前の部(7名)と午後の部(5名)に分け、以下のように実施した。

①当所会議室において動物愛護センターの概要の説明(20分間)

②自由研究作成のまとめ方説明(20分間)

③バックヤード見学(飼育スペースから手術室)(40分間)

見学コースに事業概要などのパネルを設置した。

④質疑応答(10分間)

(5) サマースクールと自由研究イベントとの違い

サマースクールの主な内容は、うさぎの飼養管理業務の手伝い、犬猫とのふれあい体験及び診察室や手術室の見学の他、犬のトレーニング方法の習得などである。

サマースクールは特に小学校低学年に人気が高く、動物のふれあいを求めて参加する親子が多く見受けられる。

3 結果

サポートイベントに参加したすべての児童が犬猫の殺処分をテーマとしてイベントに臨んでいた。

イベントを通じて、動物ふれあい訪問活動、子どもサポート（不登校児童生徒支援事業）及び負傷動物の治療など、あまり認知されていない事業について周知、関心をもってもらうことができた。

参加した12名の児童の内、4名は長野県こども新聞コンクールの記事作りを目的に参加していた。

4 考察

長野県こども新聞コンクールは信濃毎日新聞社と信毎販売店が毎年夏季に開催し、昨年で17回を数える。このコンクールは小学生全学年を対象としており、記事作りのテーマは自由となっている。昨年度は1万17作品の応募があり、県内6地区ごと審査が行われ、地区ごとの入選作品が全県コンクールに進み、優秀賞と奨励賞が選ばれた。

サポートイベント参加者ではなかったが、全県コンクールの審査に進んだ135点の内2点は、ハローアニマルを題材としていた。また動物行政をテーマとした作品も2点あり、内1点は優秀賞を受賞していた。これら入選作品は、信濃毎日新聞特集記事において全て紹介されていた。さらにテレビ報道もされるなど関心が高いことがうかがえた。

このように、子ども達が作成した新聞は行政自ら事業を宣伝するよりも説得力があり、記事を作成した児童のみならず、記事を読む人にハローアニマルについて知ってもらうことは有用であると考えられた。

5 まとめ

動物管理関係事業所では、犬のしつけ方教室、動物ふれあい体験、施設見学など、限られた人員の中で動物愛護普及啓発事業を実施している。

今回実施した自由研究イベントでは、職員1名で行い、動物とのふれあい体験もないことから、他事業と比べて比較的容易に実施することができた。また「殺処分」という負のイメージからの脱却のために、動物愛護センターの多様な取り組みや職員の努力を知ってもらうことで、正しく動物愛護行政について理解してもらうことができた。さらに夏休みに実施することで親子が参加でき動物愛護普及啓発を効率的に浸透することが可能である。

今後の展開として自由研究イベントと並行してこども新聞作りをテーマとしたイベントも企画し、子ども達の需要に応えることで当所の取り組みを広く伝えていきたい。

6 その他

(1) 自由研究作成のまとめ方 (例)

① 動機づけ

犬猫を飼っている。動物が好きだ。犬猫の病気について知りたい。

②テーマを決める

ハローアニマルの獣医さんはどんな仕事をしているのか。

③下調べをする

インターネットで調べてみる。図書館で調べてみる。大人に聞いてみる。調べてわからなかったこと、もっと調べてみたいことをまとめておく。

④見学に行こう

下調べしてわからなかったことを質問する。見学時に知らなかったことをメモに取る。施設の基本的な情報は、配布されるパンフレット等を活用する。

⑤おうちでまとめてみる

まとめ方のポイントは、テーマについて、下調べや見学を通して想像と異なっていた事を必ず盛り込むこと。下調べした中で、他の施設と異なる点も盛り込むと研究の奥行きが深まる。他にも見学して驚いたこと、知らなかったことなども盛り込むと良い。最後に自分の感想を添えて締めくくる。

(2) こども新聞作り(例)～入選作品の共通点～

新聞作りの基本的なまとめ方は自由研究作成のまとめ方(例)①～④まで共通し、下記に留意することでわかりやすい新聞に仕上がる。

①伝えたいテーマを1つに絞る

②見出しは5つ程度にする。

見出しを読むだけで、読者に記事全体の内容を理解してもらえる工夫をする。

③テーマの象徴となる絵及び画像を入れる。

取材して裏付けとなるデータ(表)も入れると記事全体に奥行きが生まれる。

④取材時の驚きや感動を大切にする。

⑤最後に新聞作り、取材を通じての感想を後記に入れる。